

効果的な校内研修の在り方1 ワークショップ型研究会

東部教育事務所

校内研修に「ワークショップ型研究会」を取り入れている学校が多くなってきました。

B小学校は、5月に校内研修でワークショップ型研究会の在り方を学びました。その後、6月に実際に校内研修で、初めてのワークショップ型を取り入れた研究会を行い、その後の学校訪問（10月）でも活用しました。この学校訪問での研究会の過程を説明し、効果について考えてみます。

1 授業の実際



①子どもたちも、付箋を活用しました。
この付箋の活用は、思考を整理する上で大変効果があります。



②授業者は、事前に「私の授業の見ほしいポイント」を作成します。
参観者は、この観点に沿って参観します。



2 学校訪問において、ワークショップ型を活用した実際



①グループで各自の分析を述べながら付箋を台紙に貼っていきます。(25分)



②グループ協議中、授業者と指導者は、授業について分析していきます。



③付箋を整理して、ラベリング(見出し)を付けていきます。思考の整理です。



④各グループの代表者が、模造紙に整理した内容を説明します。(5分)
その後、ポイントを絞って、全体協議会を行います。(20分)
これを受け、指導者が全体の指導を行います。(40分)



3 アンケート：「今年度から、校内研修の協議会の持ち方をワークショップ型にかえました。この形式で協議するようになってよかった点等、感想をお願いします。」

- ・授業者の立場として、「授業を見てほしいポイント」を書くことで、改めて、本時に身に付けさせたい力を意識することができた。
- ・授業を見る観点がはっきりとしていて参観しやすい。参観者は、視点がぶれないで協議を進めることができる。
- ・授業を見る観点がはっきりしているため、協議しやすく、付箋が色別になったので、自分で気づいたことや思ったこと等出しやすくなった。
- ・一つ一つの視点について、お互いに考えを出し合えること。
- ・一つの方向に全員で導き出せること。
- ・授業者の「授業を見てほしいポイント」にそって自由に意見交換ができる。
- ・少人数で話合うので発言しやすい。以前に比べて協議が深まった。
- ・少人数で話し合いを進めるため、意見が出しやすい。反面、一度方向性が決まると修正がしづらい。
- ・少人数グループの協議なので、教職員経験に関わらず自分の意見を述べやすかった。
- ・以前よりも協議が活発に行われるようになった。
- ・グループ協議から全体協議を行うとき、それぞれのグループで要点をプレゼンするので、教師の要約力や発表力も向上した。
- ・授業の良かったところはもちろん、改善点等も話合うことで練り上げたものになる。
- ・模造紙の軸のお陰で、子どもの活動や教師の行動まで幅広く授業を振り返ることができた。
- ・模造紙に書くので考えがまとめやすい。考えの流れが分かりやすいこと。自分の考えとの共通点や相違点を見やすいこと。
- ・他のグループの発表を聞き合うことで、より良い展開方法の案が広がっていく。
- ・色分けした付箋を使うので、視覚的にも分かりやすい。
- ・付箋を活用することで意見が残せるので、考えをまとめやすい。
- ・授業者は、付箋が残っているので、改めて自分の授業を振り返り、改善点や工夫点を考えることができ、その後の授業に生かすことができた。

・今年度、国語の指導員として、2校の授業研究協議会において、このワークショップ型の研究協議会の持ち方を伝えてきました。

・今までの協議では、一人一人に質問や感想を応えてもらう。私は、まだまだ勉強不足のため、なかなか質問に対しての答えをすることができなかった。だが、ワークショップ型になり、具体的に「見てほしいポイント」に沿って、授業を見ているため、分かりやすく答えやすくなった。グループで意見を出し合うので、他の先生方の意見を聞いて、「なるほど」と思うことも多くなった。自分の授業でも生かせること、参考にさせてもらいながらやってみようという内容（授業）が増えた気がします。

グループで活発に意見が言える協議会になったと思います。